

星の降る館

「死とは永劫の惰眠を食う行為に他ならないではないか」———館の主人

1 はじめに

このシナリオ既に何らかの理由で死亡している探索者のために作られた、ロスト探索者救済シナリオです。死後ヒプノスの館に招かれた探索者達は、ヒプノスは人の生への執着に非常に興味を持っています。館で起きた不思議な殺人事件の犯人を応えれば、生き返らせてくれるでしょう。又、このシナリオはダンガンロンパ霧切のトリックを元としている為、未読の方は各自の判断で読み進めてください。

人数 1、4 人

二時間ほど

難易度中

2 登場人物

ヒプノス

館の主人、自分から本来の姿を現す事はない。顔を見せろと言われた場合は現れる。〈san1d6/1d20〉探索者に紛れているが、事件の犯人役、網野サトルと入れ替えトリックを行っている。

下記の三人は、事件の被害者の為軽く LP をすればよい。

網野サトル

30代ほどの男、足が悪くびっこを引いている、常識人。最初から死んでおり、ヒプノスが演じている。

好物カエル肉

燕尾ユウタ

サラリーマン風の男、寡黙、好物砂肝

犬塚マサシ

小太りの男、自分勝手、好物コンソメポテトチップス

3 導入

各々の理由を死んだ探索者はそのまま気が遠くなる。

目覚めるとプラネタリウムを鑑賞し寝てしまっていたようだ。小規模なプラネタリウムで周りには他の探索者や、網野、燕尾、犬塚がいる。DEX の一番早い探索者から目覚める。

探索者達は自身が死んだ事を覚えていない。そして持ち物はすべてなくなっている。

4 プラネタリウム

セッション中に上映が止まる事はない。非常に座りごちの良い椅子で、何時間でも上映を見ている事が出来そうだ。そして後ろには出口であろう両開きの扉がある。

<天文学>で星の並びが本来ありえない並び方をしており、これは地球以外から見た星の様子だとわかる。

<聞き耳>か細くガイドの音声が聞こえるが、それは人間のそれではなく、身の毛ものよだつようなおぞましい声だ、直ちに0/1のSAN値を失う。

<目星>至って普通のプラネタリウムだが、よく見ると座席のシートには丁寧な刺繍が施されており、<アイデア>に成功すると、見た事もない生き物だと感じ0/1のSAN値を失う

5 プラネタリウムの扉

両開きの扉鍵はかかっていない

<目星>見た事もない彫刻が施されている。薄気味悪さを感じる。

<聞き耳>扉の向こうからはなんの音も聞こえない。

6 通路

扉を抜けると白塗りのまっすぐの通路が開ける。突き当りにはおなじような両開きの扉がある。扉にはこの館の地図が彫られている。奥から音は聞こえない。この時点で地図を掲示するよう。

7 広間

両開きの扉をあけると真っ白な空間に中央には大きな机、上には探索者の好物が置かれている。NPCの網野は自身の好物のカエルのサラダがある事におお喜びする。味も申し分ない。立派な安楽椅子が一脚と人数分の粗末なスツールがある。

机の上を<目星>すると、メモが見つかる。

「ご自由にお食べください。死人のお口に合うかはわかりかねますが」

メモを見た探索者は<アイデア>に成功すると、自身が死んだ際の記憶を思い出し1/1d4のSANチェック。周りの探索者に伝えるかどうかは自由である。

8 客室

一部屋に小型冷蔵庫、ベッドと窓の方向に望遠鏡が備えつけられている。冷蔵庫の中身は水の入ったペットボトル。望遠鏡を使っても何も見えない。(この時点で望遠鏡の中に網野の死体が入っている)

9 惨劇の惰眠

粗方探索を終えると、網野が非常に眠いと言い出します。これは食べ物や飲み水に睡眠薬が仕込まれている為です。必ずNPCの三人は別々の部屋を勝手に占拠し、寝てしまいます。探索者は残りの二部屋か、プラネタリウムで睡眠をとる必要があります。全員が寝静まると、自身が死んだときの出来事を夢として見ます。広間のメモを見てアイデアに成功していない探索者は1/1d4のSANチェック

10 凄惨な覚醒

君たちは目を覚ます、どれほどの時間がたったのかわからないが驚くほど、NPC 達の部屋が静かである。部屋の鍵は空いている、据えたにおいが立ち込める。そしてベッドのシーツはこんもりと膨らんでおり <目星>に成功すると血が滲んでいる。シーツを取り払うと、部屋に対応した NPC の死体が現れるがそれは関節ごとに切断され、バラバラなものとなっている。そしてシーツには大量の血が染みついている。このようなグロテスクな死体をみてしまった場合 1/1d6 の SAN チェック。三人のバラバラ死体はパーツを交互に入れ替えられている。 <医学>に成功すると不思議な事に死体は全て血抜きをされている又、切断されている為どの順番で殺されたのかはわからないがハサミのような物で切断された事がわかる。

1 1 推理

ここからは犯人を当てる為の推理パートである。死体を確認してから広間に行くとテーブルにメモが置かれている。

「推理の始まりだ、誰が犯人か。答えは一度切り。合図はこの紙を破くこと」とかかされている。

客室

冷蔵庫の中を調べるか <目星>に成功すると、血の付いた裁ちばさみが見つかる。

望遠鏡を取り外し中を調べると、腐臭がし血がこびりついている。五つの客室の望遠鏡すべてがそうになっている。

広間

昨日の食事がなくなっており、先ほどのメモと紙とペンが置かれている。 <目星>に成功すると机の裏にスイッチがある事に気づく。開閉とかかかれている。押すと天井が割れ夜空を一望できる。しかし雪が吹き込んでくる。そして天井が開いた事で、一冊の本が降ってくる。タイトルはバラバラ殺人戦法とかかかれている。中身はバラバラ殺人の利点として死亡推定時刻をわからなくする、死体を持ち運べる等の事が記されている。

プラネタリウム

星の映像は流れておらず、何かをカウントダウンしている。ここを見つけた時点で残り時間を決めるト良い。 <目星>に成功すると座席の一つが破かれている事に気づく、綿か何かが入っていたはずだがちょうど何かを入れていたよう綿の一部分がなくなっている。

ヒント

下記の情報はプレイヤーが煮詰まってしまっている時に何か技能を振ったら出る情報としてください。

<アイデア> 網野がびっこを引いていた事、犬塚が太っている事を思い出す。

<目星> いつの間にかメモが壁に貼ってある「犯人は生きている、探せ、探せ」

<目星> メモ「思い切りの良さも時には大事だろう」

1 2 結論

紙を破り犯人の名前を告げる、又は安楽椅子に誰かが潜んでいるのを暴いた場合、広間の安楽椅子のジ

ッパーが開き、そこから網野が出てくる。驚いた事に網野には両足がなかった。＜0/1のSANチェック＞そして「おめでとう、おめでとう。よくわかったね君たちはすごいよ。称賛の言葉を送りつくしてもそれでも足りないぐらいだ」

「何か質問はあるかな？」ここでトリックの全容についてなど聞くことが出来る。

「それじゃあ、ご褒美だよ、そう頑張りには褒美をね。じっとしていてくれ。また、生を謳歌したまえよ、ねえ」

その言葉を聞いたとき、強烈な眠気が君たちを包む、成すすべもなく眠りにつく。深い深い泥のような生暖かさからゆっくり目覚めると。君は、本来の世界の自室で目覚めた。朝日がまぶしい。これが現実なのだ。悟った君たちは自身が死ぬはずであった事柄の朝に目覚めたようだ。そして1d20の正気度を回復する。

犯人の名前を間違える、時間切れの場合

君たちは酩酊にも似た激しい眠気に襲われる。次に目覚めた時には「残念だなあ、残念だ。残念。それじゃあ、いただきます」という声と共にヒプノスの本来の姿が君たちの目の前に現れる。そのあまりにも醜悪な姿を見た君たちは＜1d6/1d20のSANチェック＞君たちは惰眠に動かぬ体のまま、この怪物に食べられてしまう。

13 解説

死体の隠し場所

望遠鏡の中、そして胴体は安楽椅子の中に隠されていた。

バラバラ殺人

死後しばらく経つと斑紋が死体に浮かび上がります。これで死亡推定時刻を予測しますが。今回のトリックでは死亡推定時刻が判明すると網野が犯人である事がすぐわかってしまう為、斑紋の原因である血を最初から抜いた状態にする為と、コンパクトに死体を隠す為にバラバラにする必要がありました。